AccessOneシリーズ
現場主義

2014年12月01日
NECネッツエスアイ株式会社

FE/GbE L3 TESTER 1071A 更新履歴

■更新日　2014年12月1日　Ver.d309-0074

IPv6グローバルアドレスの解放

・IPv6のグローバルアドレス仕様をRFC2373からRFC4291に変更し、ユニークローカルアドレスを
グローバルアドレスとして扱えるように改善致しました。

■更新日　2012年8月1日　Ver.d309-0073

・タッチパネルコントローラの最適化を行ないました。

■更新日　2011年12月1日　Ver.d309-0071

・接続確認機能の改善
HSRPを利用したネットワークでトレースルート試験が可能になりました。

■更新日　2010年8月1日　Ver.d309-0070

・別売のケーブルチェック機能オプション1937A※をインストールして使用することができます。
※ケーブルチェック機能をAccessOneにインストールすると、UTP/STPケーブルの結線状態や
長さなどを確認することができるようになります。

■更新日　2010年7月1日　Ver.d309-0066

1．ベアラ品質測定機能、接続確認機能を改善

・VLAN2のPIDとIDを両方同時に0に設定出来ないよう、誤操作防止のための改善を行いました。
・その他の改善

AccessOneシリーズ
現場主義

2014年12月01日
NECネッツエスアイ株式会社

FE/GbE L3 TESTER 1071A 更新履歴

■更新日　2009年8月19日　Ver.d309-0061

1．ベアラ品質測定 機能改善

・損失の検出ロジックの見直しを行い、フレームの順序入れ替わりがあった場合も損失として検出できるようになりました。

2．ベアラ品質測定、接続確認　機能改善

・取扱説明書に記載しているネットワークへの接続手順以外でネットワークに接続した場合でも、測定開始後、通常通り結果がカウントアップできるようになりました。

■更新日　2009年2月10日　Ver.d308-0055

1．ベアラ品質測定 機能追加

・最小フレームサイズを64バイトに拡張しました。
　但し、VLAN未使用、IPv4、プロトコルUDPの場合に限ります。
・最大送信帯域と最大受信帯域を画面に表示するとともに試験結果にも保存するようにしました。
・ループ設定したテスタでも損失を表示するようにしました。
・設定3の画面に、リンク速度、サイズ、使用率から計算した基準fpsを表示するようにしました。

2．ベアラ品質測定　機能改善

・IPv6の環境でベアラ品質測定を行った場合、IPヘッダのLENGTHフィールドとUDPヘッダのSIZEの値が20バイト多く表示される問題を改善しました。
・送信帯域及び受信帯域がちょうど「1.00%」のとき、「100%」と表示される問題を改善しました。
・測定後保存したファイル（***.GRP）に格納されている「送受信帯域」が最初の30秒間のみ計算誤差が大きくなり本来の測定値より大きくなる問題を改善しました。

■更新日　2008年9月29日　Ver.d306-0048

PING（IPv4）機能

・1,518バイトなど大きなフレームサイズでPINGのReplayをする場合、PING Replayパケットの TTL値に「64」と「255」が混在することがありました。TTL値は規格では定められておりませんが「64」固定としました。
・ARPのフレームサイズを64byteから、VLAN1使用時は68byte、VLAN2使用時は72byteに変更しました。

■更新日　2008年6月15日　Ver.d306-0047

・トレースルート機能を追加しました。
・その他の改善